

入試年度	2026	入試方式	一般	課程	博士後期
研究科	発達教育学	専攻	教育学	領域（分野）	教育学
出題のねらい					
大学院博士後期課程の学びにおいて、最新の研究論文、レビュー、海外の専門書を正確に読み内容を批判的に理解するために必要な、専門的な英文文献を読みこなす力量を確認しています。					
解答・解答例または採点時の評価ポイント					
【解答例】 教授法の遂行と専門性は、教師の専門職性の核心である。教師の専門的コンピテンシーを理解し、促進するためには、教授法に強く焦点を当てる必要があります。しかしながら、教授法は、関係性の膨大さとその動的な性質ゆえに、把握するうえで困難な分析上の課題を提示する。広く合意された定義は存在せず、教授法は知識と実践との複雑な相互作用を含んでいるからである。教育は科学であると同時に芸術でもある。 教師でさえ、カリキュラムや学習、教室運営について話すのに比べ、自身の指導そのものについて語ることは難しいと感じることがよくある。専門的な力量とは、実践的で複雑な芸術であると同時に、指導と教授法から最大限引き出そうとする学習環境をデザインすることでもある。 教授法における専門的力量は、良好な学級経営を通して、支援的な雰囲気確保、そして評価を通じて発揮される。「学級経営」とは、教師が生徒を組織し、生徒の注意を引き、集中させる手法を指す。「支援的な雰囲気」は、生徒と教師の関係性を意味し、教師が積極的かつ建設的なフィードバックをするときに高まる。「認知的活性化」とは、学習内容に対する生徒の認知的関与を促す教授を意味する。熟達した教師は、これらの課題を一貫して成し遂げている。様々な教授法は、これら三つの課題のバランスをとるための方法がそれぞれ異なっており、熟達した教師はこの三つの要素を達成するために、複数の教授アプローチを組み合わせ活用している。 教授法は、その効果を最大限に引き出す学習環境をデザインする専門性と結びつける必要がある。教師という職業を、教育と学習に深く関わる専門職として理解するためには、教授法に焦点を当てることが不可欠であり、科学的理論を日々の経験や特定の文脈と結びつけるのである。教師に対する見方は、カリキュラムの教育的アイディアや手続きを実行する技術者から、学習環境のデザイナーであり、教えることの芸術と科学のエキスパートへと変化している。教師の専門職性を定義する、核となる教授方法に関する知識をより一層明確にすることは、教師の地位をさらに押し上げるはずである。					